

水トラストニュース

2017.12 No.37



もくじ

ボランティアと私(続き) 1
木工を始めました。 3
2017年なごや環境大学 5
2016年度 収支決算報告 6

ボランティアと私

瀧井 史織

2回連載の2回目です

<森林作業とのかかわり>

紀伊半島水害で各所の社協ボラセンが閉まり、その後私は、和歌山県那智勝浦の地域住民ボラセンと、紀宝町と、奈良県十津川村を掛け持っていました。

十津川村は台風水害復旧ボラの村外募集は無く、村内だけで処理しましたが、観光資源である熊野古道は各所で崩壊、流失。その復旧の為、村外ボラの募集がありました。いわゆる道普請です。それまで私は、山は歩くものと思っていましたが、管理する立場になり、山の手入れ不足を見る事になりました。杉ヒノキの人工林は地肌むき出し、間伐された材木は放置されたまま。

水害の形態としては大きく二つに分かれます。一つは大河川の堤防決壊による平地での氾濫。2年前の茨城県常総市での鬼怒川氾濫や、それ以前の京都府舞鶴市の由良川の氾濫などです。もう一つは、なんでこんな所で水害と思うような中間山地の丘陵地帯での水害。数年前の熊本水害、山口県萩市、広島市水害など。裏山の沢がせき止められてダムとなり、一気に崩壊、土石流が木材と共に下の家に突っ込んで。でも本当は、おそらくそれよりも以前から徐々に山の小崩壊が進んでいて、誰も入らないものだから手入れされずに放置、既に前兆があったんだと思います。

十津川村では、参加者が隊列を組み、皆で鋤簾やレーキを持って熊野古道に沿って山に登って行き、掃除や崩れた箇所石積み、土ならしをしました。

<災害ボラで感じたこと>

災害ボラに参加して今思うことは、災害ボラって他人の為だけじゃないんだ、本当は自分の為なんだと感じています。確かに少しは困っている人達の役には立っているかも知れません。

初めての者同士がチームを組んで、全くの見知らぬ他人の家に行き、一日一緒に作業をして。大体の流れは、水没した家財や電化製品をゴミ集積場に持って行き、食器や棚の使えるものは洗って干して。畳の上の土砂を一輪車で運びだし、畳をめくり捨てに行く。濡れた畳は本当に重くて、男4人でやっとこらです。床板をめくり、床下の泥出し。きついのは板の間の下の泥出し、合羽を着ての歩伏前進になります。蒸し暑くて息苦しく、汗も手が汚くて拭うことができません。給料を貰っての仕事だったら怒りますよ。でもみんな無報酬だから、誰かがやらなければとの信念に基づく行動だからできます。一人では決してできません、お互いに助け合っの協力作業だからやり遂げる事ができます。

昼休みには皆で困んで弁当を食べて。たいてい被災地は山間地の過疎地が多いから年寄りを中心で、「昔は、ここはこんな地域やったんよ〜。」とか話を聞き。そして一日の作業の終わりに、「みなごめんね、こんなんだからお返りする物も何もありませんがね、今日は有難うね〜」って言われたら、その誠実さに、誰だってまた来ようと思います。

本当は誰も皆辛いはず。家は壊れ、車は流され、食べる所や寝る所も無く。明日からの生活の不

安。でも被災者の方々は我々ボランティアの前では決して弱音は吐きません。若い子達が応援に来てくれて嬉しいのか、明るく、ボランティアには優しく接してくれます。あなたが逆の立場だったら、同様に振る舞えますか～？。

私は行くたびに、自分がどれだけ幸せか、帰れば寝る所や温かいご飯が食べられる。被災者の方々の優しく大きな心に触れ、自分はまだまだ頑張れるはずだと、勇気と元気を貰って帰ってきます。人の心の痛み、それは自分も経験して初めて解るものです。現場に行って、すさまじい状況を直接見て、嗅いで、触れて、何か心に感じてしまいます。

ただ災害ボラと言っても、世間には行きたくても行けない人達がたくさんいます。幼子を抱えたお母さん、介護をしなければならないお父さん。現場に行くことだけがボランティアじゃありません。周りを見て気付きさえすれば、いくらでもボランティアはあります。電車のホームで白い杖を見かけたら、誰かが声を掛けるとか、或いは電車に乗るまで見守ってあげるとかしたら、きっと線路に転落することは無いでしょう。スーパーに行けば年寄り夫婦が大きな買い物袋の運搬に難儀していることもあります。

ボランティアの原点、それは単なる行動だけで評価されるもので無く、皆が心の中に優しい気持ちを持つことなのです。一人の人間が頑張るのではなくて、千人が、万人が、1億人が皆、少しずつ優しい心と、やり切る根性を持てば、きっと、もっと良い社会が来ると信じています。

<最後に>

最後に関西について少し紹介させていただきます。かつて紀伊半島は陸の孤島みたいで、行くにも不便でしたが、今は高速道路が延び、無料の自動車専用国道も随時延長され、大阪から白浜廻りで、また名古屋から尾鷲経由でもかなり近くなりました。世界遺産の熊野本宮大社、那智大社、速玉大社とそれらを結ぶ熊野古道があります。

本宮大社の近くには、熊野川町で水害で水没し、取壊し予定だった旧小学校を地域の復興拠点として、ブックカフェに蘇らせた木造校舎の旧九重小学校もあります。ボラ仲間と、目の前を行きかう瀨峡ジェット船を屋根の上から眺めながら、皆でペンキ塗りをし。水害で壊れた木製窓格子も泊まり込みで修理しました。

十津川村には、多数の源泉温泉と民宿、特にホテル昴は広い敷地と綺麗な建物です。毎年春先に、昴スタート、ゴールのマラソンも行われます。また今、秋に熊野古道を走るトレイルランにも力を注いでいます。私も設営メンバーとして参加させていただいております。



作業中の瀧井さん→

木工を始めました。

小川 真知

以前、愛知県内から御嵩の山仕事に通っていましたが、退職を機に引っ越し、その後は参加できなくなってしまいました。それからあっという間に6〜7年もの月日経ちましたが、当時お世話になった方々が「あの子は今頃どうしているかなあ」と、時々私のことを思い出して下さる、という話をお聞きしました。覚えていていただけることを、本当に嬉しく思います。

今回はこの場をお借りして、改めて感謝の気持ちを伝えるとともに、山仕事に通いながら考えていたことや、その後の進路について書かせていただこうと思います。

御嵩に通っていた当時は、自動車関連の会社に勤めていました。自分にとっては難しい仕事だけれど、挑戦しよう、頑張ろう！と臨んだ職種でした。

しかし、なかなかうまく仕事を進めることができず、能力不足を痛感し、どんどん自信を失っていきます。前向きに努力しなければならないのに、落ち込んでいくばかり…。次第に、自分は何の役にも立たない駄目な人間だと思い込むようになります。

山仕事に参加したきっかけは、そういう苦しさを少しでも軽くしたいという気持ちでした。仕事はできないけれど、何か奉仕活動をして、誰かに感謝され、安心したい。ちょっとした気休めみたいなものでした。

しかしながら、その期待は見事に裏切られることとなります。最初の目的をすっかり忘れてしまうくらい、ただただ純粋にものすごく楽しかったのです。森林の中で体を動かすだけで気持ちが良いし、初めて見聞きすることばかりで、どんどん新しい世界が広がっていきます。そして何より、自然と寄り添って生きる、尊敬すべき人たちと出会うことができました。

それからはすっかりヤミツキになり、山仕事通いが始まります。そんな中で、何度も頭の片隅に現れる考えがありました。「学生のとくに工業デザインを学んだけれど、木工が一番好きだったな。木

は好きだし、家具に興味もあるし、そういう方面の仕事をやりたいかもしれない」というものです。

もっと前にもふとそんなことを思う瞬間がありましたが、ただの憧れだけではやっていけるはずが無いと、考えを否定していました。しかし樹木に触れているうちに、素直な自分の気持ちを大切に思えるようになり、本当にやってみようかと考え始めます。

やはり、新しく何かを始めることに対する不安はありました。そこで最後に私の背中を押



したのは、山仕事で出会った人たちの存在です。自然や樹木に積極的に関わっている人って、こんなに素晴らしい人たちばかりなんだ！それなら、木工をやっている人だって、きっと同じに違いない。そんな確信が、私に勇気をくれたのです。

職場には申し訳無かったのですが、やろうと決めたら居ても立ってもいらませんでした。翌春、飛騨高山にある職業訓練校の木工科へと入校します。

訓練期間は一年間です。前期は、鉋や鑿などの道具の仕込みと、それらを用いてひたすら手加工の練習。後期は、自分でデザイン・設計した家具を、主に機械を用いて制作します。

最初はみんな、刃物を真つすぐに研ぐことすらできません。出発点でこんなに苦戦するなんて、この先やっていけるのかしら！？と、厳しさを思い知らされます。

しかし、刃物の研ぎや手加工は、練習し試行錯誤した分だけ必ず上達しました。こんな自分でも頑張ればできるようになるのだと、少しずつですが自信を持てるようになります。

訓練修了後は、同じく高山にある木製家具メーカーに就職しました。会社では、分業制で機械を駆使した生産が行われます。鉋をしゃーっと引いて一枚板を削る、みたいな、いわゆる木工職人のイメージとはちょっと違います。

しかし、機械を使えば誰でも上手く作れるという訳でもありません。良いものを作るためには、材料の性質を見定める目や、感覚による繊細な作り込みが必要です。木工は、人間の手にしかできないという部分が多く残っており、製造業の中でも腕の見せどころ満載の世界なのではないかと思っています。

そうして、入社から5年間は高山の工場に勤めましたが、地元へ戻りたいという気持ちが強くなり、今年の10月から北海道へ転勤させていただき、今に至ります。

木工の世界は幅が広いし奥も深いので、私が知っていることはまだまだ1%にも満たないと思います。できないことばかりで落ち込むことも多いです。でもやっぱり木の家具が好きなので、それに関わっていただけるのは幸せなことだと思います。

山仕事でお世話になった皆さん、素晴らしい経験をさせていただき、そして背中を押していただき、本当にありがとうございました。北海道からはちょっと遠いですが、必ずまた御嵩に行きます。





11月の講座

2017年なごや環境大学

今年も「なごや環境大学共育講座」を開催しています。

「木曾川がもたらす生物多様性の恵みに感謝し、水源の森で学び、働く」

プログラム： 10月14日（土）森の中での座学、炭焼き準備

11月11日（土）炭焼き、薪割り

12月9日（土）炭で焼き魚、薪割り

1月13日（土）間伐・枝打ちと餅つき、講座のまとめ

参加者アンケートより： 子どもたちの声

「もっとじかんをながくしてほしいです」

「木を切るのがたいへんだった。さんぼは、さかみちをのぼったからたいへんだった」

「さんぼが楽しかった」

「まきを割ったりしてたのしかった」

「はやくすみを使いたい」

「竹をきる時、竹のせんいがかたくてびっくりした」

「寒かったけれどたき火してたのしかった」



12月の講座

2016年度 収支決算報告

2016年4月1日から2017年3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
(資金収支の部)				
I 経常収入の部				
1 会費収入	98,000	96,000	2,000	
1) 正会員会費収入	40,000	40,000	0	正会員年会費 2000円×20名
2) 支持会員会費収入	58,000	56,000	2,000	支持会員年会費 2000円×28名
2 事業収入	100,000	265,075	△ 165,075	環境大学講座参加費と助成金、大王製紙売り上げ
3 補助金等収入	0	0	0	
1) 民間補助金収入	0	0	0	
4 寄付金収入	200,000	190,500	9,500	
1) 寄付金収入	200,000	190,500	9,500	個人有志より
5 借入金収入	0	0	0	
1) 借入金収入	0	0	0	
6 雑収入	55,100	25,106	29,994	
1) 雑収入	5,000	3,800	1,200	春食べ会の会費残など
2) 保険料	50,000	21,300	28,700	ボランティア保険参加者負担分
3) 受け取り利息	100	6	94	預金利息
経常収入合計	453,100	576,681	△ 123,581	
II 経常支出の部				
1 事業費	300,000	289,149	10,851	
1) 水源林の保護育成事業	100,000	113,109	△ 13,109	水源の森みたけ森林管理、ボランティア保険
2) 水源地域環境保全のための政策提言事業	100,000	101,860	△ 1,860	御嵩町有林管理(運搬車購入)、ガソリン代他
3) 環境保全啓発事業	100,000	74,180	25,820	水トラストニュース印刷製本発送費
2 管理費	165,000	142,222	22,778	
1) 役員報酬	0	0	0	
2) 給料手当	0	0	0	
3) 臨時雇賃金	0	0	0	
4) 福利厚生費	0	0	0	
5) 会議費	12,000	12,000	0	理事会1回 総会1回 役員会12回
6) 旅費交通費	0	0	0	
7) 通信運搬費	10,000	222	9,778	切手
8) 消耗什器備品費	0	0	0	
9) 消耗品費	8,000	0	8,000	
10) 印刷製本費	10,000	10,000	0	資料代
11) 光熱水料費	0	0	0	
12) 賃借料	120,000	120,000	0	事務所賃借料
13) 諸謝金	0	0	0	
14) 租税公課	0	0	0	
15) 雑費	5,000	0	5,000	
3 予備費	15,000	0	15,000	
1) 予備費	15,000	0	15,000	
経常支出合計	480,000	431,371	48,629	
経常支出差額	△ 26,900	145,310	△ 172,210	
III その他資金支出の部				
1 固定資産取得支出	0	0	0	
1) 水源の森土地取得費	0	0	0	
2 借入金返済支出	0	0	0	
1) 借入金返済支出	0	0	0	
その他資金支出の合計	0	0	0	
当期収支差額	△ 26,900	145,310	△ 172,210	
前期繰越収支差額	790,173	790,173	0	
次期繰越収支差額	763,273	935,483	△ 172,210	

気軽に、楽しく 山仕事に参加しませんか

とき： 毎月第2土曜日およびそれに続く日曜日

集合場所： 御嵩町・中公民館（名鉄広見線・御嵩口下車、すぐ）

集合時間： 午前10時

参加の方法：電話、ファックス、電子メールなどで申し込んで下さい。

参加申し込み・問い合わせ先：TEL,FAX: 052-735-5453(市村)

E-mail: mitake500npo@yahoo.co.jp

服装：長袖、長ズボン、作業の出来る履き物

持ち物：軍手、弁当、水筒

表紙の絵は早川しょう子さん作



発行

特定非営利活動法人 みたけ・500万人の木曾川水トラスト
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家気付
TEL&FAX 052-682-4737
郵便振替00800-9-64810
URL <http://mitake500npo.na.coocan.jp/>
e-mail mitake500npo@yahoo.co.jp